



レイ大高島通信

レイカディア大学同窓会 高島支部



第 110 号 令和 8 年 1 月 26 日

発行責任者 西澤 幸夫

□支部活動の報告

12月17日、市のマイクロバスを利用し「近江商人の理念と歴史を体感し、地域文化を学ぶ」研修旅行を実施。

五箇荘金堂地区で広大な屋敷を見学し、勤勉・倏約・正直を重んじた生き方に触れた。

伊藤忠兵衛記念館では「三方よし」の理念を学び、総合商社の原点を理解。昼食は愛東マールレストステーションで地域の食文化を楽しんだ。

午後は豊郷小学校旧校群でウオーリス建築を体感し、酒蔵岡村本屋金亀では彦根城井伊家に献上された伝統の酒造りや伏流水の活用を学び、清酒と搾りかすを土産にした。近江商人の精神と湖東の文化遺産を巡る充実した一日となった。

旧豊郷小学校



五箇荘金堂地区

□会員「作品展」

1月23日～1月29日(木)

午後15時まで

場所…安曇川公民館ロビー

出展者14名・30作品

□紙芝居の実施

1月23日(金) 13時～

内容…開催中の作品展会場で近江聖人中江藤樹先生の紙芝居を実施しました。





◆今後のイベント

本部『基礎講座』

三日月大造滋賀県知事の講義

日時：令和8年2月12日（木）

13時から15時まで

会場：栗東芸術文化会館大ホール
テーマ：「健康滋賀をどうつくるか（仮）」

参加希望の方は地区の役員様に連絡願います。

◆令和8年度総会について

日時：令和8年4月15日（水）

13時30分～

場所：新旭公民館

詳細は別途お知らせしますので、予定をお願いします。

《原稿投稿》

「湯たんぽとモバイルバッテリー」

我が家では灯油ストーブを使っています。やかんでお湯を沸かし湯たんぽを活用しています。灯油ストーブは熱効率が良く優しい暖が取れしかもお湯を沸かしスチーム効果もあります。湯たんぽは熱を蓄え、長時間にわたって暖を取ることができる極めてエコな伝統的なツールであると思います。一方、世の中を騒がしているモバイルバッテリー

ーは便利なツールです。共通点があると思い生成AIに聞いてみました。

現代社会において、エネルギーの効率的な利用と保存は、環境問題や資源の持続可能性を考える上で極めて重要な課題である。その中で、私たちの身近にある「湯たんぽ」と「モバイルバッテリー」は、一見異なる存在でありながら、エネルギーの保存と有効利用という観点から興味深い比較対象となる。

湯たんぽは、古くから使われてきた保温器具であり、熱湯を注ぐことでその熱を蓄え、長時間にわたって暖を取ることができる。電力を使わず、必要なくに必要な分だけの熱を利用できるため、非常にエネルギー効率が低い。特に、電気毛布や暖房器具に比べて消費エネルギーが少なく、環境負荷を抑えることができる点で、現代においても見直されている。

一方、モバイルバッテリーは、電気エネルギーを蓄え、必要な

ときにスマートフォンやタブレットなどの電子機器に供給する装置である。外出先でも電力を確保できる利便性があり、災害時の備えとしても注目されている。近年では、太陽光で充電できるタイプや、急速充電に対応した高効率モデルも登場し、より持続可能なエネルギー利用が可能となっている。

しかし、これらの道具にもデメリットは存在する。湯たんぽはお湯を沸かすためにガスや電気を使う必要があり、使用後の冷却水の処理や、やけどのリスクもある。また、保温時間には限界があり、長時間の暖房には向かない。一方、モバイルバッテリーは製造時にリチウムなどの希少資源を必要とし、廃棄時には環境負荷が懸念される。さらに、充電時に電力を消費するため、使用状況によってはエネルギー効率が下がることもある。このように、湯たんぽとモバイルバッテリーはそれぞれ利点と課題を持ちながらも、「エネルギー

ーを一時的に蓄え、必要なときに使う」という共通点を持つ。私たちはこれらの道具を上手に使い分け、生活スタイルに合ったエネルギー利用を心がけることが求められている。伝統的な知恵と現代技術の融合が、持続可能な社会への一歩となるだろう。以上 2026.01.22 記

投稿者 西澤幸夫

◎「高島通信」の原稿を募集しています。メールにて！

投稿先西澤 メールアドレス

nishiyuki@sea.plala.jp

